

り誠にことほり

女心いれの事

ままこをあひせぬは世上のならひなればこそ。昔今にいたりて繼母繼子の中とてつらき事にいひなすなり。つらく是を思ふにおよそ女性に心底にひがめる事有ものならん夫は其子を繼母にかけぬる事をうき事に思ふゆへに分て不便に思ふは理なり。それ子は夫婦の中より生ずればこの子はまへのつまと今の我夫の愛執よりなせる處なるが故にひがめる心をささとして。夫の子を愛せるは其母をしたふがゆへなり。然ば我をよそになして。もとをしのおこゝろもうるさし。又は其したはれし人のはらより出けるがにくくて。見るもうるさきなんめり。愚痴なる中のいたつて深きはこのまよひ成べし。更に其子にとがはあらず。母なくしてまなしごとなりしを我にえんあればこそは親子のちぎりをばなしけるなれ。しかのまならず夫にえんあればこそ。しられずしらぬ人の跡に來て他の家を我ものになして萬をとりあつかひ侍れど。夫婦のちぎりを深く大切にあらはす。其子は今の夫のたねなるに依てひとしほいとをしき事なら

ずや。さはなくしてとがなき子にむかひて。さりし其人のむかしのちぎりを。今我つまと成たるにひきかへて妬こゝろは。かへすくあさましき心。うつくしきはたゞうはべの生得にして心中にはひがみなきはまれなるとかや。扱も佛は能これをしろしめして。女人は地ごくのつかひなり。佛のたねをたちたり。外面は菩薩に似て。内心は夜叉のごとくなり。説給へりはづくつしむべきは女性のひがめる心なるべし人命無常にしてきのふはけふにうつり。鳥邊野。舟岡のけふりたちさるひまなきみちなれば。後世をねがひ佛にしたがふは人の第一なれ共。わかき女郎などの後世の修行をなしたまはんは。人のめにたゞぬやうにぞ有べきなり。ことにふれたるてらまいり。神佛の縁日。談議。法會の所にまうて給ふをりからはいかにも心をそれにうつされ。衣装。えもんを制し給ひて。人の目にたゞぬやうに有べし。分て神事佛法の場などには。悪をけして善をつとめんため事成に。貴賤あつまるまのまへえ。人の目にたつ風情したる人一人來ぬれば人の心はうつりやすきものにし

て。僧も俗も先それに目をやり侍るなり。かくあれば人をして散亂せざるも女なれば。其人の來しゆへに其説法人々の功德すくなく人を惡道に落す道理なり。よく／＼こゝろをてつゝしみたふべきなり

六

源氏伊勢物語みる意入の事

源氏伊勢物語等の物は女性のもてあそびぐさにてあてやかなる人のうへにてもこれにすぎたる物なし。源氏物語はたれもしるごとく。越前守爲時の女紫式部かつくれる。伊勢が筆作。此二種の物語は光源氏大將と。在原業平の一代のありさまをしるせり。表に好色の事を書ければ。見る人色好事の便となして心をそれはうつすなり。是ひがことに。もとより此みちは人倫のものとなれども。人一盛の程夢にして皆無常なり。名のみ残りて永き世がたりとなれば其名残る事はちつゝしむべきとおしへ。又榮いつしかにへんじて無常と成ことはりをとしゆるため。卷を五十四帖になし。天臺の四門になぞらへて卷々の名をつけしと。橘壺の榮ときめき若紫の御なからひ。ためしなき榮花にさかへ給ひしも。つゝに雲隠まし／＼て。たゞ夢の浮橋と成はてつる生者必滅のことはり

をのへたるものなり。かやうに心をつくれば。面白く情深し。又伊勢物語をも戀媒となせるは誤なり。男女の中思ひをかはし。其言答のゆふにやさしき心詞の情を愛して姪風色好にこゝろをつけべからず。これらの物語人に好色をすゝむるものならば。此物語はなきにはしかじ。底の心其にはあらざればこそ我國の至寶は源氏物語に過たるはなしと。古人もほめ給ひしなり。そうじては日本はかなの四十七字にて唐土のかたき文字をやすらかに讀わかつ。是此國の重寶なりかなはたれも讀侍るゆへ物語双紙のたぐひは。人前にも讀ぬるはつねなり。されど和語のならひにて書たるまゝにはよまぬ所ありてはさま／＼のならひ事有なれば。是をしらづしては人中にてはゆめ／＼よまじき事なり

七

328
375

珍書刊行會書譜 第五册

不許複製

大正四年十月十日印刷
大正四年十月十四日發行

編輯發行人 川上邦基
東京市京橋區柳町二番地

印刷人 佐久間衛治
東京市京橋區西體屋町二十七番地

印刷所 株式會社 秀英舍
東京市京橋區西體屋町二十七番地

發行所 珍書刊行會
東京市京橋區柳町二番地
電話 京橋 5011

終